(明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可) （日刊）月曜及祭日の翌日休刊 明治四十三年十二月六日（火曜日） 第五百七十二號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き路をゆくが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西果門小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

編輯局より

三日 勝山生

▲關稅問題に關する日英間の交渉は、今尙ほ行惱中にあるもの如し、其原因の一は英國政界の動搖にも因る可けれども、主として我政府部內に意見の扞格を生じたるが爲めなりとか。

▲吾人の聞く處に依れば、當初大藏省調査の稅表に不備の點頗る多く、爲めに英國製造業者の反對を招き遂に今日の難境を齎せしもの由、然るに外務省側に於ては此杜撰なる報告に信頼して交渉を開始せし者にして今更其粗忽を愧恨するも及ばす結局不面目を忍びて退讓意見を持するに至りしものなりとか、何れにしても事の玆に到れるは我政府の大失態と云ふ可し。

▲去る一日を以て發表されたる陸軍の大交迭は實に思ひ切つたる遣り方なり年少にして且つ學識を有する有爲の將官杯でドシ〳〵拔られしものもあり、吾人は我陸軍が比較的情實に驅られざるを喜ぶ。

▲今回進級の少將中最年少者は新に第七旅團長に補せられたる河合操氏にして氏は大分縣出身年漸く四十有三、當地日之出小學校長河合精一郎氏の實弟なりとか、一は敎育者一は軍人、仕官の方面こそ異なりしとは云へ精一郎氏たるもの遂に愚兄たるを免れず失敬〳〵。

▲今回中將に拔擢せられし仙波太郎將軍は記者と鄕を同ふす、太郎將軍は舊庄屋の家に生れしも維新の際產を失ひ當時年少の將軍は馱馬を牽ひて賃銀を得、或は酒屋の抄振りに雇はれ抔せしも性極めて遲鈍にして物の用に立たざりしが、彼の西南役の際漸く一兵卒として征軍し至る處奇功を奏し爾來旭日の如く同鄕秋山中將と共に累進して大佐に迄進みしも、極めて不平家にして何時も上官と相容れず屢々休職となり秋山將軍より後るゝ事二年、漸く今回中將に進級せしなり、されど將軍の手腕は夙に陸軍部內の竹重する處なりと其將軍が布衣より起り今日に至る徑路を訪ねんか實に青年の好立志編たるを失はず、吾人同鄕の故を以て將軍今回の進級に對し衷心愉快を感ずるもの也

株式賣買の手續（七）

▲損益計算

一例へば最初五十圓にて御買建相成りたる十株が六十圓に騰貴したる時御轉賣相成りたるものとすれば其差一株十圓即ち十株に付壹百圓の直合益にて此の內手數料金二圓と假定し之を引去り殘る九十八圓が純益之れに證據金を添へ受渡し申上候儀に有之候御賣建の時も亦之に準じ候然る時は引換に案內狀幷びに證據金領收證を添へて御返却被下度候

▲受渡

一御賣建株引渡相成候方は受渡當日一日前に到着致候株は賣建の株數相揃へ現株送附相成度若し他地方なれば書留郵便又は小包郵便にて委任狀を添付して御送附相成れば最も御便利に有之候

賣渡委任狀は大略左の割合に準じて添付する事

三十株以下……十株宛のもの三枚
五十株以上……百株以下十株のもの三枚以上餘は二十株宛
百株以上……十株のもの五枚以上餘は五十株以下にて適當
但株券が二十株以上なる時は株券一枚毎に一枚づゝ

一株式類の名稱は株式會社何々銀行株式何々株式會社株式或は株式會社何々取引所株式と御記載被下度候但し日本銀行並に橫濱正金銀行株式は單に日本銀行株式橫濱正金銀行株式と記し株式會社の文字は用ひざる事に相成居候

又た御買建株御取引に相成候御方は受渡當日一日前に到達致候株御取引株式代金御送附可相成候地方の顧客にして於御取引の上名義書換の手續難被成御方は委任狀に印鑑用紙二枚を添へて御送附相成候へば書換の手續を了へ現株取揃へ書留又は小包郵便にて御送附可申上候

寄書

日本人の通信機關を利用するは尙幼稚也

擲水生

日本で初めて郵便の開けたのは明治の初年で其頃國民が此郵便を利用した數は一箇年に約五十六万通であつた、當時の人口を二千五百萬とすると六十人で一年に一通を出した割合となる、夫から明治五年になると漸く增加して一箇年二百萬通と成たから其頃の人口を三千万人と假定して十五人で一年に一通となる、然るに二十年目に成ると一億五千萬通に進んだから一人で一年に四通宛を出すこととなつた、之れが三十年目には五億五千萬通であるからて の時の人口を四千萬人と見て一年に一人で約十四通となり、四十年目に至ると頓に激增して十三億三千万通となつたから即ち人口五千万人として一人が一年に二十六通を出したものとなる、尙昨年中に至りては既に十四億六千萬通に達したから一人平均二十八通となる、これを最初の六十人で一年に一通の時と較べると殆ど三千倍と云ふ數になる、叙上の如く我國の郵便は頗る進步した樣に見へるが今是れを列國に比較して見ると一人で一個年に百六十通の北米合衆國人が第一で、次で英國の百十通、其次が瑞西人の九十六通、獨逸人の九十三通、白耳義人が八十四通和蘭人が七十八通、佛蘭人が七十七通丁抹人が五十四通、墺太利人が四十八通、那威人が三十通、伊太利人が二十九通、日本人が二十八通、匈牙利人が二十七通、西班牙人が十七通、露西亞人が七通であるから日本人は第十二番目にある、露國の非常に少いのは國の廣い割合に未開の土地が多いからである、世界の一等國として誇る我國が瑞西や丁抹や那威や伊太利や白耳義や和蘭などの國々に劣るのは實に情けないことである、翻つて電信はどふかと云ふと最近一年一人割は英國の十八通を多として露國の二通を少しとす、日本人は五通專ろ割合に多いよふだか是れは邦人が電報を無暗に利用するからである。

◎新刊紹介

●新公論（十二月號）同誌本月號に於ける重なる材料は三千餘萬農民を奈何にする問題の下に租稅負擔の上より（橫井時敬）金融狀態の上より（田中穗積）社會改良上より（留岡幸助）農業本位の上より（松岡康毅）田園趣味より（佐治實然）軍國壯丁の上より（東條中將）の諸大家か愼重なる論評を試みられたるは必讀の價あり其他呑氣千萬な米國獄中生活（七階住人）自然美と藝術（紀屋峯）木偶刑事とヒヨットコ記者（村上助三郎）五十年間の七顛八起（大澤京之助）上野公園の大惡魔（藍染川住人）余の泥棒觀（市場學次郎）明治の變節政治家（叙上學人）實業界の注意人物（樹下石上人）三日屑屋（變裝記者）文壇落葉衣（猿丸太夫）等面白し万報一覽は例により內外數百の雜誌より重要思潮を摘載せり又明治成金番附は大晦日を抱へたる師走の好見物たるを失はず（東京市本郷區東片町百十一番地新公論社振替東京三二四〇番定價郵稅共一冊金十七錢五厘一ヶ年前金一圓七十錢）

山中鹿之助

第廿八回 西尾麟慶演

偖此時退城に就て井上方より引取りました鹿之助も父の傍に居りましたが當年十五才の少年で御座ひますが進み出でまして 鹿「れ父上北條の先手は三百計りの小勢なり、何うか私へ此の軍仰付られたし、と申し出ました森之助莞爾と笑ひ 森「然らば汝に任すべし好きに致して見よ、然しながら若し敗軍に及ぶ時は七生までの勘當なるぞ、汝が井上殿より習ひ覺えた軍略を施して美事戰ひを致して見よ、と云は鹿之助大ひに喜こんで 鹿「今より我が伎倆を現はすときなり、御覽候へ」と、茲で僅かながら兵士を八方に分け火攻の用意を致しました、此方は北條方の先手伊東友景を始めとして、ヤア〳〵、味方の者共能く承はれ、豫て聞及ぶ諏訪ヶ城は要害堅固の處なり、之を踏破れば甲州へ入る事何程の事あらん、他國より手を出されん內早く味方の同勢を以て討て取れ、と云ふ下知に俄に野狩の裝束を脱捨、鎧を着用して見る〳〵內に旗差物を翻してドッと鬨の聲を揚げました 伊東「ヤア〳〵諏訪ヶ城へ物申さく斯く申す某は北條方の先手伊東友景なり、速に城を開て降參あれ」と呼ばはつたり ○「又其跡に控へたるは後詰の大將笠原新太郎春風なり」と大音に呼ばる、此時大手の門を開ひて、鹿毛なる駒に朱の鞍を置き紅白五段の厚房を掛け、赤糸縅の鎧を着し、銀の白星三十六間の兜には鹿の角の前立打つたるを頂き、二間柄三尺大身の槍を馬の平首に附け、手綱を左手に掻くり、大手の眞只中に立上り 鹿「ヤア〳〵敵の奴輩能く承はれ、此の諏訪城の主信州村上家の家臣相木森之助が一子鹿之助幸盛なり、今年積つて十五才の初陣なり、敵方には不意に來られ候ものなれば何も饗應致すべき品もなく、持合たるは甲州流の砲術、鐵の鯢立、斯る山家なれば石の礫別しての味ひ之れあり之を各々方に饗するなれば美事に之を受候へ」と呼はつたり 伊「ヤア〳〵小しき夫なる小冠者イデ討取て功名にせよ」と下知の下より致して十四五名の同勢槍ぶすまを作つて突てかゝる、折しもあれ十五六人のもの一同に鐵砲を打出したり、之を合圖に彼方の山より致して煙が立上る、之を見て驚ひたるは伊東友景なり 伊「スワヤ充分の計略ありと見へたり、迂濶には進むまじ控へろ〳〵」と未だ戰ひも致さずして引揚んとする處を、鹿之助之を見て追駈來り馬上ながら十四五人を突殺したり、其勢ひに增々恐れ一丁ばかり引揚たる折から、此方の山の頂より大石を落す事夥しく、夫れに當る者は身体微塵になる、又道を塞がん爲に大木を切倒してある、夫を攀登らんとすれば、ます〳〵大石を投下し三四十名と云ふもの瞬間に打倒されたり、折から煙焔々と立暴り、頃しも七月の中旬なり、ガウ〳〵として燃上る、北條方は斯る計略ありとは知らず、散々に打惱され引揚んとして、廻り〳〵て居る內に最早四面皆火になりました、夫れ敵はじと大井川の水源へ飛び入りて、其危きを逃れんとなしたるが、城中にては豫て用意の爲に水源を堰止て置きました故、最早必要なければ今敵の奴輩川に入つて火を逃て居るを見るや否や一時に堰を切て押流しました、其水勢、ガウ〳〵として渦巻き、一時に流れ激しく相成り、川に入つたる者ども悉く押流されました、笠原新六郎は討死を致し伊東友景は漸く此處を逃げました、鹿之助は味方には一人の怪我もなく無事に城中に引揚げたる事に相成た相木森之助も大に喜び、是より酒宴を開て祝ひ、夫より三日經て兩親は鹿之助を面前に呼び 森「我等は主君を失ひたれば是より信濃に歸つて身を隱し、安穩に老後を終るべし、併しながら亂れたる此の世の中に產れたる其方は、今より我等と共に信州へ隱れて農事を致し一生を送るは甚だ惜しく、然れば是より諸國を廻り良主を撰で夫れに仕へ、天晴名を擧父母の名も現せよ、是れ即ち孝の終りなり、されば速に此處を出立致して何國へなりとも志す處へ參り身を立よ我は耕して一生を終らん、と申聞せました

東京電報（五日）

▲市町村制の改正案

內務省に於て調査中なりし市町村制改正案は既に閣議審査官會議に於て決定したりと

▲經理生徒募集

海軍經理學校は生徒三十名を募集する旨海軍省告示を以て發表せられたり志願者は明年三月十五日迄に同校長に宛て出願すべし年齡は滿十六歲以上

▲明年度の製糖額

明四十四年度臺灣製糖額は約四億萬斤に達すべき見込なり

▲淺間山大噴火

前橋電報 淺間山は二日午後八時二十三分突然爆發し[illegible]大音響を發し再び猛烈なる[illegible]淺間山は黒煙[illegible]群馬縣[illegible]より人心[illegible]火の子を降らし[illegible]引[illegible]硝子破[illegible]噴火後[illegible]恟々たり

▲神奈補缺選擧

同縣補缺選擧の結果は左の如く八百卅六票の差を以て政友會の勝利に歸せり

[illegible]十九票　[illegible]造（政）

[illegible]十三票　[illegible]藤吉（國）

▲慶親王狙擊せらる

慶親王は[illegible]途中に於て或者の爲めに狙擊せられたるも親王は負傷せず犯人は其場に於て捕縛せられたり犯人の素性は秘密に附せらる

▲間島移民の歸化

間島へ移住せる朝鮮人は支那官憲の勸誘に依り續々淸國へ歸化する模樣なり

▲井上大使の一行

アルゼンチン獨立祭典に參列の井上大使一行は十一月二十八日[illegible]着直ちに館[illegible]

▲警視統一と豫算

警務統一事業に關する明年度の豫算は三十五萬圓にして內地方補助費[illegible]殘金二十九萬圓は臨時建設費及び經常費に[illegible]

▲牛疫血清製造所

農商務省に於ては明年度事業として經費九萬圓を投じ朝鮮に牛疫血清製造所を新設[illegible]

▲休職石川縣知事

休職村上石川縣知事は細川侯爵家々令事務囑托されたるを以て依願本官を免せられ同時に荒川横濱市長と共に錦鷄間祗候仰付られたり

●貴族銀行を反對者

朝鮮貴族の計畫する貴族銀行に就ては李王殿下は愈々設立の曉に壹百萬圓の大株主たることを承諾せられたるやにて尹德榮侯、閔丙奭子等は趙重應子の歸來を待ちて具體的の案を立てんと協議中李址鎔伯、李俊鎔、李載克男の諸氏は寧ろ李王家一門を以て銀行を設立するに若かずとて反對しつゝありとの說あり

●道長官一行の出發

第三回巡視として檜垣道長官の出發すべきこと既報の如くなるが五日朝藥師川憲兵隊長と共に巡視の途に上れり

總督對秋吉訴訟

▽現場に假裁判所設置

秋吉氏の仁川朱安面鹽田所有權確認問題に付ては過般仁川地方裁判所支部に於て第一回の口頭辯論を開きたるは既報の如くなるが由來同支部に於て審理中なりしが愈々今五日午前九時より同鹽田係爭區域檢證の爲め大谷外二名の判事及清水檢事は書記を隨へ總督府側よりは赤倉事務官外局官二名を從へ被告總督代理人中村辯護士原告秋吉代理人岩本、木尾の兩辯護士等現場に出張し同地に假裁判所を設置し實地審理を爲し更に原告の申請に係る田中、吳濃善等の證人を訊問し午後閉廷の豫定なるが判決の言渡しは追て報道すべし

彙報

寺內總督の歸期

某所に達したる情報に依れば寺內總督は來る二十日東京出發歸任の途に就くことに決定したりと之れは遲くとも廿五六日頃には歸京せらるべしと

珠算競技の成績

去る三日通信局に於て開催したる京城內通信官署聯合珠算競技會の狀況は既報の如くなるが更に當日に於ける各賞者の撰出局所及其氏名を聞くに如左

第一回查算紙獨算五級（查紙は六位以下の金額記載したる傳票百枚綴算入限度四分以內）競技者二十七人受賞者なし

第二回帳簿寄付獨算五級（一枚の洋紙に八位以下の金額五十口を記載したるもの算入限度四分以內）競技者二十七人

一等賞細井敬一（通信局）三分三十二秒、二等賞成瀨千輔（光化門）三分三十五秒、三等賞受賞者なし

第三回查算紙獨算四級（算入限度三分三十秒以內）競技者二十三人

一等賞牧野正春（管理所）三分七秒

二等賞橋本武一（同）三分二十七秒

三等賞鍋島貞次（龍山局）三分卅秒

第四回帳簿寄付獨算四級（算入限度三分卅秒以內）競技者二十三人

一等賞岡島行續（通信局）二分四十五秒、二三等受賞者なし

第五回查算紙獨算三級（算入限度三分以內）競技者廿三人

一等賞福地興三（管理所）二分四十五秒、二三等受賞者なし

第六回帳簿寄付獨算三級（算入限度三分以內）競技者廿三人

一等賞田飼軍治（管理所）二分五十二秒、二等賞藤村幾太（同）二分五十七秒、三等受賞者なし

第七回查算獨算二級（算入限度二分卅秒以內）競技者十三人

一等賞三島竹男（管理所）二分卅秒

二三等受賞者なし

第八回帳簿寄付獨算二級（算入限度二分卅秒以內）競技者十三人

一等賞岡田政三（管理所）二分十五秒、二等賞溝口政登（同）二分二十二秒、三等賞吉永百人（同）二分廿七秒

第九回查算紙獨算一級（算入限度二分以內）競技者五人

一等賞瀧本武（管理所）查算紙末算入五枚、二等賞吉永治輔（同）七枚

第十回帳簿寄付獨算一級（算入限度二分以內）競技者五人

一等賞原田方介（管理所）末算入三口二等賞岡田榮一（同）末算入九口

第十一回讀上算丙組（獨算五級六位以下のもの廿五口に算入す）競技者廿七人

受賞者井汲康廣（光化門）

第十二回讀上算乙組（獨算三級四級の聯合七位以下の者三十口を算入）

第一次（競技者二十二人）受賞者岡島行續（通信局）第二次（競技者二十三人）受賞者大崎安造（管理所）金子彥吉（管理所）福地興三（管理所）任浦偉太郎（管理所）

第十三回讀上算甲組（獨算一級二級の聯合八位以下のもの三十口を算入す）競技者十八人

受賞者宇井眞（管理所）三島竹男（同）末永虎熊（同）原田方介（管理所）岡田榮一（同）

第十四回來賓競技

第一次查算紙獨算競技者廿四人

一等賞武內三省（鐵道局）二分五十七秒、二等賞松木富太郎（同）三分十秒、三等賞河野州心（農工銀行）四分、第二次帳簿寄付獨算競技者廿四人一等賞河野庸二（農商工部）二分二十七秒、二等賞都築正人（韓國銀行）二分二十七秒、三等賞藤川賓太郎（鐵道局）二分三十五秒、第三次讀上算競技者廿四人受賞者武內三省（鐵道局）釣木文平（同）

右競技の成績を見るに受賞の多數は何れも朝鮮總督府郵便爲替貯金管理所員なるが同所は郵便爲替貯金振替貯金の各原簿を設備し原簿登記、證書發行、利子決算等の受拂精算事務を執り郵便局所に於て預入又は拂出したる各種の受拂證據書類は悉く同所に廻送の上夫々計算記帳整理せらるゝ組織にして其證據書類は一箇年二百萬口以上に上り其の金額實に一億圓以上に達するの狀況なるが爲め是等の事務取扱上吏員珠算巧劣は直接事務の進捗に至大の關係あるを以て豫て遠藤所長には所員を督して練習を爲さしめられたる趣にて今回の好成績も亦畢竟右の結果に外ならざるべく尙將來倍々琢磨せしめて斯の妙技を發揮せしむる計劃なりと

●身元調查に付誤解

併合以來各地の民狀頗る良好にして一般に各種の企業に志す由なるも彼等の中には無資無產にして徒らに事業を企つるものなきにあらず斯の如きは產業を掘作する所以にあらざるのみならず企業者其人の爲めにも不幸を招くことなきにあらざれば警務總監部に於ては事業の性質上總監部に關係を及ぼすものを調查する爲めに各地の資產家及び實業者の身元を調查し居るなるが地方の人民中には身元調查をなすは畢竟自分等の爲めに監督若しくは顧問を置かんとするなりと誤解する者ある由なるが其筋にては事業其ものゝ性質に依りては監督することあるも人民の身元を調查して監督若しくは顧問を置くが如きことは勿論なしと云ふ

●朝鮮公債利子問題

國民黨政務調查局理事合田福太郎氏は二日午前大藏省に出頭山崎國債局長に面會十箇條の質問を爲したるも何れも數字上の說明を要するを以て後日回答を得ることゝし引取りたるが同氏の質問に係る朝鮮公債の利子は一般會計に屬するや朝鮮特別會計に屬するやの件に就きては朝鮮特別會計より之を減債基金に繰入れ支拂ふ豫定の旨回答ありたりと

●新任師團經理部長

陸軍一等主計正田中三郎氏が豫備役仰付けられたること既報の如くなるが新任第二師團經理部長としては現陸軍倉庫長陸軍二等主計正白石吾作氏が一等主計正に進級し經理部長たることに決定したるが白石主計正は軍倉庫長に任せらるゝ前第二師團經理部高級部員として在職せし人にて溫厚の人なりと

●平壤の分監長會議

平壤監獄署管內に於ける分監長會議は五日より二日間の豫定にて平壤本監に開催したるが協議の內容は一般監獄事務に關する事務の打合にして五日の向井檢事長官鈴江典獄の監獄事務に關する訓示的演說ありたりと

●大同江の導標新置

航路標識管理局にては大同江萬景附近の航路を一層分明ならしむる爲め同所附近に導標を新設する計劃ありたるが愈四日より該定置方に着手したるが今明日中には完成すべしと云ふ

●師團獸醫部長補轉

第二師團獸醫部長陸軍二等獸醫正篠崎雅太郎氏は今回の陸軍大移動にて弘前第八師團獸醫部長に轉補され同時に一等獸醫正に進級したるが後任は獸醫學校敎官なりといふ

●鎭海灣の射擊演習

鎭海灣に於ける重砲實彈射擊演習は去る二十九日より施行され松永師團長は今井高級副官を隨へて見學に赴けるが諸演習は六日を以て終了する筈なりと

●防備隊司令官交迭

鎭海灣防備隊司令官宮岡海軍少將は今回待命となり海軍少將仙頭武央氏後任司令官となり同時に海軍建築工事支部長を兼任することゝなれり

●平壤鑛業所長轉職

平壤鑛業所長事務囑托たる武田海軍機關少將は今回の海軍移動により艦政本部付より敎育本部第二部長に轉職せり

●鴨綠江の交通狀態

鴨綠江は未だ全く結氷するに至らず故に交通困難なるも三日四日の兩日には漸々潮時を見計ひ一回連絡船を運航し鐵道連絡の手小荷物のみ輸送せりと

●步兵の小戰鬪射擊

六十五聯隊第五中隊にては六七の兩日午前九時より十一時に渉り京城西北方弘濟院附近に於て戰鬪射擊を施行す

●練習生の射擊演習

警官練習所にある短期生二十九名は六日午前九時より午後五時迄の間に於て奬忠壇にて射擊演習を行ふ由なり

●外波內藏吉氏昇進

既電の如く總督府附海軍武官外波內藏吉氏は今回海軍少將に昇進されたり

對民會市民の聲

京城民團の民會議員は去る十月七日にて任期滿了に付き直に改選を行はざるべからざるも當時總督府官制發布後一週日位の事なるが總督も民團制に就ては何等かの意見を有するものゝ如く從つて議員改選の當分差控ゆべしとの命令ありしより民長も該命令いまに見合せ居りたる處爾來三ヶ月の今日に到れど一切何等の命示もあらざるにぞ民團に於ても只々當惑の外なく去りとて緊急問題は他日を期する次第にも參らざれば其都度決議して認可の申請を爲し居れど是れ又何等の指命なく併かも明年度の豫算編成新事業の計劃等は此儘永く放任し置くべからず何れも其決議時期に際し居り若し手を拱して此時期を看過し去らんか諸般の事務は明年度に於て忽ち中止するの餘儀なきに還着すべし取分け警備問題の如き焦眉の急に迫り居るのみか一面小學校增設問題の經營もあれば過日開議の民會に於て明年度計劃新事業調查委員なるものを選定し引續き委員會開議なるも本紙既報の記事に徵しても明かなるが近く同會は約八九十萬圓の新事業を計劃せんとの傾勢あり否事實上着々調查中なるより市民の有識者は其大々的新事業の內容は兎に角、任期滿了して未だ改選をも行はざる舊議員別言すれば無資格議員、無權能の民會が勝手に委員を選擧し新事業の調查を托するなどは抑も何等の法律規則の條文に據れるものなるか實に了解に苦まざるを得ずとなし假令委員會、民會が如何なる決議をなすも根本的に於て無資格者の決議なれば申すまでもなく無効たるを遁れざれば總督府にても斷々乎として認可を與へざるなるべし併かも其の此處に到りたる失態に就ては民長の責任を問はざるべからずと主張し居り是れに同感を寄せるもの頗る多く今や有力なる輿論となれるもの如くなるが遊莫當事者も如上市民の呼聲に一考するの要なかるべきか（電通）

釜木間の電鐵計畫

釜山を起點とし鎭海灣軍港處在地なる縣洞を經て三千浦を過ぎ全羅道の沿岸を縫ひ筏橋等の有名なる市場を通過し木浦に達すべき電氣鐵道を敷設するの計畫此頃釜山の有力者間に唱へられ大池忠助、迫間房太郎、五嶋甚吉等京阪の有力者と昨今交渉中なりとのことなるが當局者に於て果して私設鐵道の敷設を許可するや否やは目下審議中なるを以て之れが決定次第請願の如何を確定するならむと云ふ

●釜山民團陳情起草

釜山の民團存續研究會は去二日午後二時より民團樓上に於て繁榮會評議員會を兼て最後の會合を開き出席諸氏熱心に討議研究の末結局意見二派に分立し則ち

▲甲派　は現在の民團を其儘に存續せん事を其筋に陳情する事

▲乙派　現民團區域內に日鮮人合同にて適當なる方法を以て自治制を存置する事

の兩說にして何れも具體的の提案ありたれど右二派の折衷說出て其中庸を取り釜山民團の現狀に鑑み民團相當の自治制を存置せられたき事由を附して本港有志者連署の上總督に陳情する事に決議確定し直に其陳情書起草委員を選定したるが同委員は去三日より北海道、臺灣其他歐米各殖民地の自治制を參考として陳情書起草に着手せりと

●海苔製法改良講習

全羅南道沿岸諸島嶼は岩海苔は天然產頗る饒多なり殊に蟾津江口を擁する光陽灣にありては古來より篊立養殖法に據り柴海苔の優良なる原料生產尠なからざるも如何せん其の製造法並びに貯藏法の粗雜なる爲め品質を落し收益を減殺しつゝある憾みもあれば全羅南道廳にては明年度に於て水產講習會を開き柴海苔製造法の改良を講ずる筈也と

●韓銀支店長披露宴

韓國銀行仁川支配人更迭披露會は既記の通り四日午後六時半仁川俱樂部にて開催し太田前支配人の挨拶次に杉山氏及び韓國銀行總裁市原氏の挨拶あり久水府尹は來賓を代表して答辭を述べ終りて樓上に模擬店を開き主客歡を盡して散會せしは同九時半なりき因に來賓は久水府尹を初め官民有志無慮百餘名にして中々の盛會なりき

●軍司令官邸送迎會

大久保軍司令官は七日大觀亭に於て渡邊、石井兩少將及石田少將の送迎會を催ふさる筈にて陪賓としては山縣政務總監、松永師團長及び在京將官幕僚を招待する筈なりと云ふ

●鎭南浦の貿易盛況

鎭南浦に於ける十一月中の貿易は近年稀なる盛況にして同港一ヶ月間の輸出移出總額は實に四十三萬九千六百十五圓にして之れを昨年の同期に比すれば約二倍強の割合なりと云ふ

●倉富長官東京出發

司法官會議終了以來朝鮮に於ける立法事務に關し法制局と直交渉を爲しつゝありたる倉富司法部長官は右交渉を了し五日東京出發歸任の途に就きたり

●鮮人の公學堂入學

在安東縣の朝鮮人子弟二名は今回大連公學堂に入學志願の赴きにて同地の知已淸商某方に寄宿し居れるが大連の公學堂に鮮人兒童を見んとするは蓋し是れ嚆矢なりと云ふ

●子爵趙重應氏歸京

貴族觀光にかはりて渡日引續き滯在し居たる趙重應氏は四日午後八時十分南大門着列車にて着京したるが出迎へ頗る盛なりしと

●宇佐美長官の出張

內務部長官宇佐美勝夫氏は平安南北道巡視の爲め新庄通譯官及び鷹松屬を隨へて五日朝出張の途に上れり

●松永師團長の歸任

馬山出張中の松永師團長及び今井少佐は五日夜歸龍されたる筈なり

●新任石田少將着任

新任臨時朝鮮派遣隊司令官石田少將は去る四日午後着任せられたり

●渡邊石田の兩少將

石田少將渡邊少將は軍司令官に申告の爲め六日來龍二三日間滯京の由

●名古屋觀光團出發

過日來各地巡遊中なりし名古屋觀光團一行は四日釜山より乘船歸途に就けり

●亞國名譽領事入京

アルゼンチン名譽領事ショフアールド氏は五日夜南大門着入京せり

●青森縣人會開催　五日午後五時より井門に於て青森縣人會を開催し今回東上の途に上るべき花田節氏の送別會をも兼ねたり因みに同縣人有志は四日仁川にても同氏祖道の宴を張れりと

●花田節氏の東上　臺灣日々新聞社東京支局長に轉じたる花田節氏は來る七日午前九時南大門發東上の筈なりと

●芥川社長の入京　釜山日報社長芥川正氏は四日入京市浦尾旅館に投宿せり

●米國總領事夫人　米國總領事夫人は四日夜南大門着列車にて歸京したり

▲相場電報（五日）

（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（二月限）

		（前場）	（後場）
神戸電鐵	寄	三八、四〇	三八、三〇
	引	同上	三八、四〇
京坂電鐵	同	六〇、四〇	六〇、六〇
	同	六〇、一〇	六〇、〇〇
鐘淵紡績	同	出來不申	一〇五、五〇
	同	一〇五、五〇	一〇五、六〇
日本郵船	同	九七、五〇	九七、一〇
	同	九七、三〇	同上
東京株新	同	一三五、〇〇	一三五、一〇
	同	一三五、六〇	一三四、七〇
大坂株式	同	一四二、一〇	一三一、八〇
	同	一四一、七〇	一三一、八〇
同直取引	同	一四〇、〇〇	一四〇、六〇
	同	一四〇、四〇	一四〇、二〇

▲前場● 十二月寄十五圓〇七錢〇一月寄一四錢▲二月寄四十四錢

▲大阪期米▼

▲前場● 十二月寄十四止六十錢五十九錢一月六十六錢止▲二月寄九十錢止六十錢九十錢

▲後場● 十二月寄五十六錢▲一月寄五十八錢▲二月寄九十錢

▲仁川米豆取引▼

▲前場● 一月限寄九圓五十錢止同上二月限寄九圓四十六錢▲最高五十四錢▲最低四十六錢▲止五十三錢

▲後場● 十二月寄九圓五十錢▲最高五十四錢▲最低五十錢▲止五十二錢▲一月寄五十錢▲最高五十一錢▲最低四十八錢止同上

▲仁川港の船舶出入▼

▲山陽丸　六日大阪より入
▲天地丸　同　大坂より入
▲筑後川丸　同　長崎より入
▲三笠丸　同　大連より入
▲香椎丸　同　濟津より入
▲筑後川丸　同　大連へ向出
▲[illegible]陽丸　同　大坂へ向出

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　四日の分如左　乘車客　六七〇、下車客　八一四　乘車賃金　一〇〇八、四二

▲南大門荷物扱高　四日の分如左　發送　七〇屯　到着　四三六屯　發送賃金　五一四、七七

▲龍山驛の乘降客　四日の分如左　乘車客　一九七　下車客　一九五　乘車賃金　一七六、六一

▲龍山驛荷物扱高　四日の分如左　發送　二七屯　到着　一〇五屯　發送賃金　七〇、三〇

▲京城手形交換高▼

十二月	枚數	金高
五日	三七一	一〇、五五六、八九

▲治外法權▼

併合後の產業振興策に關し、本社は曩に有志諸氏の意見を聽き本紙上に於て發表した、十人寄れば十色で種々異なる意見もあつたが、其內全く一致して居たのが地方交通機關の發達であつた▲交通機關の發達、之れは半島開發上ドウしても第一にやらねばならぬ事だ、ソコで此頃は馬山、木浦間、淸津、羅南間、晉州、三千浦間等の蒸氣、電氣各鐵道がプロモートされて居るが何れも結構の事だ▲本來を云へば半島の開發は交通機關さへ闢へて置けばあとは捨て置いても獨りで出來て行くのだ、而らば總督府などはアレコレと少し許りつゝ手を附けるよりも交通機關の設備に全力を注いではドウダ▲扨全力を注ぐとしてドウするかと云ふと今の總督府の豫算の三分の二乃ち蝶が卵をとリックる樣にアレへもコレへも薄く廣く散布する金を節してソレを地方鐵道の補給金に遣るのだ▲補給と云つても京釜鐵道の時の樣に澤山やる必要は豪も無い、高が年三朱か四朱位で良い、併し之丈の補給でも遣るとなれば企業家は蟻の甘きに就くが如く喜んで集る、汽笛電笛が忽ちにして八道の山河に響く樣になるのだ▲獨占的事業の排斥に就いて同業朝鮮時報が論じて居る、思ふに李朝五百年間に於ける半島產業の衰退は全く獨占から來たのだ▲移住內地人官民は半島に於ける獨占の弊を已に知つて居る筈だ、而るに何事ぞ此頃は特許會社や特許銀行やが半官的威力を以て民業をツブし何もかも獨占せんと企てゝる、之は甚だ怪しからぬ事だ▲總督府た役人に眼があるかドウか、若しあるなら現在獨占の弊が見ゆる筈だ。

●貴族銀行を反對者

朝鮮貴族の計畫する貴族銀行に就ては李王殿下は愈々設立の曉に壹百萬圓の[illegible]て尹德榮侯、閔丙奭子等は趙重應子の歸來を待ちて具体的の案を立てんと協議中李址鎔伯、李夏鎔、李載克男の諸氏は寧ろ李王家一門を以て銀行を設立するに若かずとて反對しつゝありとの

●道長官一行の出發

第三回巡視として檜垣道長官の出發すべきことと既報の如くなるが五日朝藥師川憲兵隊長と共に巡視の途に上れり

總督對秋吉氏の訴訟

▽現場に假裁判所設置

秋吉氏の仁川米安面礦田所有權確認問題に付ては過般仁川地方裁判所支部に於て第一回の口頭辯論を開きたるは既報の如くなるが由來同支部に於て審理中なりしが愈々今五日午前九時より同礦田係爭區域檢證の爲め大谷外二名の判事及清水檢事は書記を隨へ總督府側よりは赤倉事務官屬官三名を從へ被告總督代理人中村辯護士原告秋吉代理人岩本、木尾の兩辯護士等現場に出張し同地に假裁判所を設置し實地審理を爲し更に原告の申請に係る田中、吳濟善等の證人を訊問し午後閉廷の豫定なるが判決の言渡しは追て報道すべし

クモから糸を採る工場

▽空想、空想にあらず

今は昔、と云ふも大袈裟ながら兎に角二十年もの昔、東京は銀座から神田區雉子町彼の日本新聞社の處に移轉した團々珍聞に何某とやらがホンノ滑稽事として書いたのに斯ふ云ふのがあつた『信州生れの何の某、某大學を卒業したが官途に就くのが嫌である、のみか一攫千金のことが好きで新規の發明をして金を儲け得んことを考へて試たが思ふ如な智惠が出ない(斷つて置くが當時は蠶業熱の勃興時代であつた)矢張り蠶を飼つての製絲事業程儲かるものに思ひ至らなかつた、併し蠶に桑の葉を食べさせて其の腎から絲を產ませて居たのでは普通のことが何か方法はないものかと思ひ倦ぐんだ一日の事恍惚と眺めた庭の樹の梢からスル〳〵と下つたクモの擧動、見ると丁と膝を打つた嗚呼此れなり〳〵と、夫れから此の蜘蛛の買出しに着手した、先づ諸方の軒下のは無代で頂戴する、破れ寺から古社何んでも蜘蛛さへ見ると相當の値に買ひ集めたてとが僅か一日に約三千匹、用意した袋の中に詰め込んで持つて歸つた下宿の二階、一攫千金の妙案、是れが甘く行つたら專賣特許を受けて日本中の蜘蛛を買ひ入れて製絲事業をなんと喜び勇んで袋の口を開けて見るとコハ如何に蜘蛛先生方袋の中で共喰ひの大亂痴氣生きて居るのは一匹か二匹、折角の妙案もダイなし」と云ふのが出て居た當時我輩も、否、馬鹿らしき事と笑つて居た然るに現に佛領マダガスカル島に產つる蜘蛛の一種で、博物者の所謂チヒラ、マダガスカリンシスと稱する蜘蛛の巢は之れを織りて美しき黃金色の絹布を製する事が出來る、一佛人は首府アンタナナリボに其製造場を設立して居る、巢を絲となすには、野生の蜘蛛を捕へ、之れを首府の一學校教員ヱム、ノーグエー氏により發明されたる機械に蜘蛛を腹の上にして固着し十二匹の蜘蛛より一度に絲を引き、之れを適度の堅さに撚りつゝ絲巻に卷くのである、之れを又二重となし凡て二十四の蜘蛛の絲にて一條の織糸が作られるので七百のクモを以て一封度の糸を製する事が出來る、蜘蛛は糸を出し盡したる時は之れを出來る場所に放ち、十日より二十日を經て再び機械に固着して糸を取るので最も强き蜘蛛も數度糸を取られたる後は死亡する、創立當時百個の蜘蛛を十六錢にて買ふといふ立札をなすや、多數のクモが集まつたので、クモより糸を製する方法を彼等土人に敎へ多數のマダカスカルの少女をして機械を山野に持廻りながら糸を製せしめて居る、絹糸の如く染色は猶困難なるも、養蠶の如き苦心勞力を要しないから將來養蠶業の大敵となるであらうと云ふ空想必ずしも空想でない。

仁川の厭世自殺

▽放蕩息子の身の果

仁川新町一丁目魚商和三郎長男野口源太郎(二七)が一昨日午前七時頃叔父なる花町三丁目三番地岩永市三郎方に於て元折れの獵銃を以て自殺を遂げたる顚末を記せんに同人の父なる野口和三郎は長崎縣彼杵郡浦上山里村の者にて今より十年前妻子を引連れ渡鮮、前記の處に居住し魚商を營み一心に勉强せし甲斐ありて店も繁昌し何不足なく暮し居る中源太郎も最早年頃となりしてどていつしか酒色の味を覺へ親の金を持ち出しては遊蕩に身を持崩し居たりしが遂に惡性の梅毒に罹り種々治療に手を盡したる結果幸に全快せしも右手左足の自由を失し不具の身となりしも尙放蕩を止めず昨年四月にも親の金六十圓を持出し處々にて遣ひ盡したるも再々の事とて家へは歸れず已むなく身に纏ひ居たる衣類を賣拂ひ旅費を作りて當時鄕里に居たる前記叔父岩永の處に行きしに岩永は源太郎の身なりの餘りに見すぼらしきに驚きたるも久々にて逢ひし事とて大に喜びいろ〳〵朝鮮の話などなしたる上何用にて來りしかと尋ねたるに同人は包まず前記の次第を話せしかば岩永も過ぎし事は致方なしとて親の方へも通知せしに親元にても其儘になし置きたるに然るに岩永も內地にては格別よき事もなきまゝ同年八月に源太郎を連れて來仁し前記の處に假頭屋を營み源太郎も厄介になり居りしに岩永は源太郎も最早廿七にもなる事故妻を持せんと心痛して居るも不自由の身とて世話する人もなきに源太郎も從來の不身持を後悔すると共に非常に悲觀しみ〳〵此の世が厭になり不愉快に日を送り居りしが先月廿二日に家人の留守中に獵に出掛ける故銃を二三日借りたき旨と又た私が二三日過ぎて歸らなければ最早此の世のた別れですとの意味の書置きなして何れへか家出せしより岩永は大に驚き後を逐ひたるも更に行方判明せざるより非常に心配をなし居たるに三日目に茫然歸り來しかば岩永も胸撫でろし安堵せしに一昨日突然銃にて自殺を遂げたるなりと死体は檢死の上叔父岩永に引渡せり

●鮮人强盜の就縛

東部昌善坊下大井洞十五統八戶洪召史(四五)は夫に死に訣れし後は獨身にて家政を整理しつゝある者なるが本月一日の夜突然書面を以て自分は六十有餘名の部下を卒ひる强盜なるに此の頃程よき仕事もなく且つ部下の病氣にて困難中に付金千五百圓許り貰ひ度きも一度に無理なれば六百圓丈け調達して東部昌善坊大井洞十一統八戶張潤基宅の烟突の中へ三日午後九時迄に人の知らぬ樣紙に包み入れ置く可く若し隱せず他言したるときは一家全部斬殺し家屋は放火す可き旨云々と申送りたるものあり洪召史は大に恐れて六百圓調達す可き準備中の旨東部署に投書舞込みたるより小牟田分署長は刑事に嚴命し如何なる方法にても是非擧げよと苦しき逮捕出來ざれば刑事の無能は勿論東部署の不名譽なりと申渡したるより犬飼刑事外鮮人刑事三人にて極力探査に從事せしに洪召史は後難を恐れて事實を吐かぬより兎角現場を押へんと苦心して附近の泥溝に入りて犯人の來るを待ち居りたるに午後九時頃洪召史が紙包を該煙突に入れたるを認め約三十分後一人の鮮人來り之を取りたるを御用と逮捕したるに犯人は東部蓮花坊后井洞百二十統四戶崔奎煥(三七)と云ふ者にて取調の上昨五日强盜犯として檢事局に送られたりと

●日鮮淸人の喧嘩

仁川松坂町二丁目十一番地荷物運搬夫宮本半次(二三)は四日午後三時頃仁川停車場構內に於て花村洞居住八夫李春三(二七)及其弟李用澤(三十)と貨物運搬の事より喧嘩を爲し宮本は前額に李春三は眼上に負傷したるを以て訴へ出たるにより本署へ引致▲龍洞居住の鮮人船夫金元寬(二三)は同日支那町三丁目飲食店義香居方に來り酒を飲み泥醉の結果傍に居たる淸人言老天なる者と爭論を始め遂に摑み合を爲し居る旨屆出により警官出張取調たるに淸人は無事なりしも金は少しの擦り傷を負たるのみを以て將來を嚴戒して放還

●章魚の如な牝牛



西部盤石坊蛤洞七十二統十二戶韓鐘律方に去る十月京畿道利川郡内に出生せし珍無類の七足牝犢あり所有者は東部二橋馬毛帽子商忠州郡守張駿遠にて毛色は黃色左前脚上部關節の處より更らに一尺余の肢を生じその肢より二個の肢と生じ尙恰かも枝の如くなり三個の脚は形狀小さく不完全なるも又た世に珍無類の七足牝犢なり

●桃山雜事

龍山桃山日曜樓は六日同地を引拂ひ京城新町元月下樓へ移轉するが元踊鬼樓跡へは和歌の浦と稱する第二種料理店開業したり

▲腕相撲

目下九州巡業中の常陸、梅ケ谷、國見の大相撲組は九州打上げ後四國へ巡り高知で國見の引退相撲を興行して本年最後の興行地と定りしが同地の年寄は昔引分横綱と今は亡き阿波の德島へ向ふ事となれりさても先乘の檢査役待乳山なり待乳山は去月二十五日德島に乘り込み敷地の選定や席割に急がしき中ながら同市の紳士連に招かれて天神山の料理店菅館に宴に侍りしに圖らず舊知の某保險會社神戶支店支配人山田正秋氏座にあり御無沙汰の挨拶から四方山の話に移り同市の齒科醫前田利行といふ人は腕相撲の强者で四國切つての無敵者自ら鐵腕と稱し居れば親方一つ對手になつて與れまじきかとの勸めに一座の紳士連も贊成し今一度昔の力を見せてと迫られ待乳山も話の種と承引し愈々二十七日午後六時より菅館に腕相撲をなすこととなつたり當日集りし宗徒の面々は渡邊陸軍少將、古川博士、山内、田中、江口の三醫學士其他五十餘名、東西に別れ樓上大廣間を二間ぶつ通して四方に紅白の幔幕を繞らし中央に四本柱に擬ひたる紅白段だらのメリンス太綱を下げ緋毛氈で土豚を作り厚き碁盤を据ゑて腕臺とぞしたりける大谷辯護士行司を承はれば可成弱さうな痩せたる連中より二十數番取合せ最後に最手同士の待乳山對鐵腕の取組となつたり見物人は手に汗し片唾を呑んで控へれば座を取持つ藝妓も幇間も白い指黑い手を擧げて黃い聲、濁つた聲に親方、待乳山と茲を先途と應援す鐵腕の力や優りけむ、流石一昔の横綱も危き事再三水入後は待乳から盛んに仕掛け鐵腕亦よく防いで勝負附かず取疲れて引分け待乳山は又も引分け横綱の名を新に四國一圓に擴めしとかや

●白銅貨を僞造

銅峴分署管内文永弼なる者五錢白銅貨を僞造し將に行使せんとしつゝある所を銅峴分署に檢擧され目下取調中なりと

●毆られた丈が損

仁川花房町菊屋旅館前にて同家の者が一人の鮮人を捕へ毆打し居るを折柄同館へ來合せたる朝鮮新聞社員豐田隼之助が見兼て事情を聞合せたるに此の鮮人は平洞居住の與元世(二二)と云ふ者にて毎日花房町邊に炭を賣居る者なるに先月下旬に同館へ炭二十俵を賣渡すの約束をなし代金を受取り直ちに十俵丈持來りたるも殘十俵は早速持來ると云ひ立去りし

●歌舞伎座の活動

旭町歌舞伎座にては六日よりパテー商會佛國直輸入原版の活動寫眞を見する由同寫眞は當地にて空前の大寫眞なりと尙ほ興行主靑山は今回を手初めに今後歌舞伎座の興行を脊負つて立つ筈にてそが前途の多幸を祝する爲め各方面より聲援高く前景氣頗宜しと

●佐久良座の舞臺開

新龍山漢江通電車道に新築せし佐久良座は愈々七日東京新派國劇派の總部員と川上帝國座中部員香川二郎一座を招き開場式を擧行し引續き一週間毎日午後三時開場當日の藝題は舊派三番叟に對する目出度き祝儀もの一幕、松の綠五幕、喜劇玉手箱なりと

▲壽座

六日の代り狂言は前「佐野鹿藏の傳」中「石切梶原」切「三十三所壺坂寺」なりと云ふ

●成道會法要執行

龍山觀町瑞龍禪寺にては七日より九日まで成道會法要を執行し毎日說敎並に禪學の講話あり終て接心會を行ひ物供の供養をなす

今日の運勢 (六日分)

十二月六日舊十一月四日 四綠友引乙巳破△一白・金朋の業務に吉新事大事に不可常事農業進んで支障なし爭論葛常防ぐべし△二黑・に罹り易し賣買取引貸借婚談誘引勸弊に尤も注意を拂ふべし新事見合せたるべし△三碧・旅行轉移轉業改革整理樣方針替に忌む其他平凡火の元用意すべし△四綠・衝突鬪諍多し風害を蒙る事あり新事旅行に忌む△五黃・盜害及酒色の害を戒しむ計算及合同組合の事に紛爭生じ易し起業開店旅行忌む△六白・新事旅行婚談に忌む金高協議協定中裁示談進んで効あり△七赤・厄運日なり諸事手控への事婚談合同結社に大に忌む負傷防ぐべし△八白・盜難離即不利防ぐべし新事旅行見合せの事△九紫・利益を得又援助便宜の加はる日なり吉證券印章の事に故障起り易し(

◆平民文庫◆

▲平民文庫の小僧君閣下此の間から貴紙の廣告に「高等記者入用」と言ふ廣告が有つたが一体全体高等記者とは如何なるものですか廿世紀の今日では高等の字を冠するものは隨分多い高等官、高等內侍、高等使丁、高等刑事、高等警察、高等下女なんど有るが此樣な者は斯く言ふ茶目吉ちやんと承知の助だ、だが此の高等記者と言ふのは此の茶目吉初めて聞た夫れで一生の智惠を搾つた考へて見たが駄目だ如何しても判らぬ仕方がない、から小僧君の御敎示をあをぐ事とした君の內の親玉のエム氏に知れるとしかられるかゞ可恐いから內密で知らして吳れ給へ(書房の茶目吉)▲博聞强記の茶目君い質問としては誠に迂潤な事で御座る役人にも高等官と云ふのがある新聞記者だつて高等もあるよ不思議がるには及ばんよ(小僧)▲海州櫻屋(料理店)安本庄八は八月初旬仁川に止宿中宿元の名儀にて物品を借り入れ其の儘歸宅せり貸主の損害並に宿元の迷惑一方ならず同人には以後注意あれ(貸主)▲僕は某役所の腰辨なるが何處か老人のある素人やの靜かな內に置いて下さる親切な處あれば本欄で知らして頂戴(下宿家嫌ひの若者)▲京龍間に濟んで語を初歩より毎夜一二時間宛御敎授下さる方がありますならば本欄にて御通知下され願ひます(龍山エムテー生)▲四日の投書の內に南大門通り某店の番頭山根某に私が關係して居る樣有之候へ共決して私にては知らず南山生に宜く分る樣貴社新聞に出して下されと賴み申候(〇〇方セキ)▲投書家君〇〇方とやられたので目的が外れたらふ…世の中は貴樣見た如な馬鹿計りぢやない此樣小刀細工は廢せよ(小僧)▲京城明治町一丁目〇〇商店の妻君は遂に此の頃當家へ入る事になつたが前は砂里院で淫賣して昨年開城に鞍替して辯護士の妻に身受され其內〇〇が開城へ商用の爲出張滯在中二人切れぬ仲となり相談の決果右辯護士を見捨知らぬ顏して本年八月京城は某下宿屋に一寸假まいして愈々先月當家へ參つた開城に在る某辯護士は非常に立腹して目下行衞を尋ねて居るそうです(仲買生)▲僕の一番樂しい時は一日の業を終り十一時に店を閉めてからストーブを圍んで會心の書を耽讀する時で有…總ての不平も煩悶も失望も此時ばかりは夢の樣に消去る而して自分の小僧と言ふ社會の一階級に有る事も何も彼も皆んな忘れて仕舞ふ斯くて自分は只書中の人となるので有る斯くて理想の境に遊ぶので有る(書房の小僧)▲羨ましいね(小僧)▲本村五丁目の三浦時計店に妖婦が居ると云ふのは嘘だ今は居らぬよ(知つてる生)

社告

▲高等記者二名採用

希望者は履歷書携帶來社せらるべし
但し確實なる身元保證人を要す
十二月 京城新報社

京城居留民團公文

公告第四十六號
住所居所氏名年齡不詳 日本人 男 一人
縊死者
本町五丁目三一館(判斷)

廣告

相貌
一 丈五尺三寸七分
一 顏細長キ方 鼻目耳並
一 口小ナル方
一 髮ハアルモ剃落シ一分位生ヘ腮毛ニ白毛ヲ交ユ
一 中肉ニシテ勞働者体ナリ
一 推定年齡五十四五歲
着衣
一 白紀州ネル襦袢 一枚
一 佐野村ト染拔キタル印文字入木綿紺 一枚
一 半天無印半天但裾ニ波模樣アリ 一枚
一 同上無地 一枚
一 茶色羅紗製鳥打帽子 一個
一 木綿形付兵兒帶 一筋
一 紺セル地ノ股引 但內ニ一筋ハ股引ヲ締メ居ルモノ 一枚
一 朝鮮草履ヲ穿チ左右ニ黑ノ靴足袋ヲ穿ク
右ハ京城南山好道園內桃源亭南上方約一丁ヲ隔ツル松林內ニ於テ相當檢視濟ノ上引渡サレタルモノニ有之候ニ付心當ノ者ハ當所ヘ申出ラルヘシ
明治四十三年十一月三十日
京城居留民團民長 古城管堂

諸公債諸株券 現物賣買

迅速確實に御取扱可申候

兼業 既製洋服御小賣 諸官衙御用達

京城本町三丁目

大坂野村德七代理店

田中友吉商店

電話九三九 振替(ター)

勉強

米糠無代進呈

韓國併合は吾輩在留商業者をして發展の急務たるを覺らしめたるを以て茲に一層の勉強を加へ御買上白米一斗毎に米糠一升宛無代にて相添進呈仕候尚遠近ご多少を論せす御一報次第迅速無賃配達可致候間何卒倍舊御引立の程奉希上候

追て米糠は現品にて御不用の向へは引替券差上可申候間御洗用にても御入用の折を以て引替方御請求被下度候

京城本町八丁目 米穀商 佐野屋 電話一四九二番

京城竹園町一丁目 米穀商 梅田商店 電話一六九五番

東京櫻組

定價表型錄寸法用紙御申越次第郵送呈仕候

東京市麹町區八重洲町一丁目一番地 合資會社 櫻組製靴部 電話本局三六一三、三六一四 振替口座東京一六五二七

質

本町一丁目裏通り支那領事館筋 南商店 電話一〇九六番

◎貸金 旭町二ノ一五 別府組車帳場筋向小路 高橋

有給者にて極秘密に低利融通可申候

●卸賣ば特に勉強仕候

宇治茶 茶

●地方注文は引替小包にて發送仕候

恩給 年金 長期立替

確實取引月一歩五厘

京城中部壽進坊相思洞廿九統七戶下宿業博多屋方

上州屋出張所

佐賀セメント

今回販賣致し候に付多少に不拘御用命被仰付度奉願候

佐賀セメント株式會社 京城代理店 南山町一丁目 電話三四四番

山村商店

歳末年始の御贈答品に付ては何卒一度御越の上一大陳列場を御隨意御一覽被下度品揃と確實とは弊店の特色に御座候

尚種々見切品も有之候

洋酒食料品 紙卷煙草 化粧品類 直輸入

京城大漢門側 エル、ロンドン商會 電話九九五番

○歐米商品は何品によらず薄口錢にて輸入御取扱仕候

新荷着廣告

米國スタンダード商會特約品

石油暖爐、空氣洋燈、火止石油

其他軍人用附屬品各種

歐風室内裝飾 家具製造販賣

京城本町三丁目 森安吉商店 電話四百三十番 振替貯金口座朝鮮一五〇番

移轉廣告

一弊店等日鮮合邦と京城府發展に伴ひ從來の場所にては不便利に付左記へ假新築移轉仕候間舊倍の御引立の程奉願上候且弊店等の店前には日本人朝鮮人支那人等共に多數開店御小賣に係らず勉強營業致させ居候に付食料品は全部立所に取揃候間至極便利に有之候共に御引立願上候

京城南大門内北米倉町

辻本嘉三郎商店 電話六四一番 振替口座京城三八番 本宅旭町二丁目 電話一四七番

池尻林太郎商店 電話三五一番 振替口座八六番

仲買人一同

喜谷 實母散

東京中橋 本家 喜谷市郎右衛門

朝鮮代理店 京城南大門通り 新井藥房

實用新案 都「こしまき」

都こしまきは昨年發賣以來貴婦人方及花柳社會を始め一般世間の大好評を博しましたが今年は更に改良を加へ最も實用に適し體裁も優美に成ました 都こしまきは舶來上等毛絲にて丸く筒形に製ひたものでノビチヾミ自由でシックリと體につき輕く暖かく體裁もよろしく一般御婦人用として殊に血の道、子宮病、腰冷ね等の衛生衣具として必要優美のこしまきです(色合には白、紅、淡紅色の三種有ります)

定價 一號一圓八十錢 二號一圓五十錢 三號一圓廿五錢 四號九十五錢

(メリヤス)(チマキ) 一號二圓二十錢 二號一圓八十錢

(都シャツ) 一號一圓八十錢 二號一圓五十錢

男子防寒用上等毛絲製上シャツ下 五百枚限り破格安賣 一組金四圓五十錢

注意 近來僞物あり御買求めのせつ櫻印都こしまきに御注意を乞ふ

送料 滿鮮五枚迄卅錢 御注文の節は郵便爲替又御一報次第引替小包にて御發送致候

東京日本橋區濱町二の十四(改正道路) 都こしまき製造元 西部商店

謹告

例年之通り伊勢神宮大麻及四十四年度曆本頒布被致候條此段謹告候也

明治四十三年十一月 日

京城旭町三丁目 神宮奉齋會禮部補 城山春吉

小職儀神宮奉齋會朝鮮本部より神宮大麻及四十四年度曆本頒布方任命せられ候條本日より各地方共頒布仕候間併せて謹告候

神宮奉齋會朝鮮本部 旭町三丁目(電話九五一番) 禮部補 城山春吉

來れり 寫眞撮影の時季

幻燈器械 寫眞器械 藥品材料一切

旅行用娯樂用營業用 直輸入

京城本町四丁目 織居寫眞機部 電話二六二 振替貯金二三一

胃腸新藥タカヂアスターゼ

滋養劑グリコナール錠

緩和下劑カスカラ糖衣錠

其他各種藥品

發賣元 東京市三共合資會社

朝鮮總代理店 仁川 竹田津三平

義齒術全般

京城永樂町一丁目 永田正二 電話一四三二番

增築落成 高等御下宿

各室清潔洗湯設備あり舊倍御愛顧之程奉願上候

京城西小門通り 横松館 電話一五五番

石炭

並に煉瓦製造廉價販賣

石灰 生石灰 フカシ灰 製造販賣

唐津石炭各種 平壤無煙炭 三池粉炭 筑後炭各種 煽石 鍛冶屋炭 粉炭用

仁川支那町一丁目(運輸部横) 八田利三郎本店 電話六十二番

龍山元町一丁目 八田石炭部

八田利三郎支店 電話五五三番

院長診察毎日午前 自七時至正午 龍山元町二丁目(電話一〇參番) 佐藤病院

胃腸病診療

院長診察毎日午後 自三時至五時 龍山郵便局北隣(電話四〇八番) 佐藤病院出張所

神戸海上運送火災保險株式會社

資本金五百萬圓

出張所 京城明治町一丁目(電話一五四九)

●かれこれと迷ふこと勿れ完全無缺の大學目藥あり

大學目藥 商標 登錄

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●流行目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に可驚奇效あり

發行所 大阪市北濱一丁目 ヘブリン丸元祖 參天堂藥房

かぜねつの最良藥 大阪田口の ヘブリン丸

各藥店にあり・定價・五錢・十錢・十五錢・三十錢

京城南大門通 新井藥房 電話一〇六八 振替口座韓國九〇四番 十六番

弦齋流割烹 す津祢

南山町一丁目 電話千五百二番

和洋御料理

會席御一人前代六十錢 御肴六品御酒二本付

洋食御一人前代六十錢 ビール一本付 六皿

すき燒御一人前代二十錢

東京 高等御しるこ 天ぷら

仕出し仕候

たちばな

京城南大門通三丁目東裏

營業科目

和洋紙類 印刷附屬品 印刷インキ 和洋書籍 防腐アシン 穀物食鹽 諸雜料類

發賣販賣

東京ランバード商會代理店

東京中外アスファルト株式會社代理店

東京千代田…代理店

藤田合名會社

東京博文館發行書籍特約店

東京金港堂發行書籍特約店

東京…會社…特約店

本社 京城明治町二丁目(電話三〇番)

出張所 東京京橋南鍋町一丁目(電話新橋三六九二番)

朝鮮牛種及牛乳改良元祖

消毒純良 高等牛乳

當場飼畜の乳牛は悉くエーアシャ、ゼルシ、ホルスタイーンの最も優逸なる洋牛而已なるが故搾取する所の牛乳は極めて純良無比なり

當場畜舍及殺菌室等其他一切の設備の完全なる他に比類なし

當場には種畜牛數頭飼養致候間種付御希望の方は御申込被下度候

當場には御進物用牛乳切手發賣致候

其他牧畜に關する一切の業務は叮嚀懇切に取扱可申候間御用命之程希上候

京城南大門外 荒井牧場(電話一〇五六番)

龍山本町三丁目 龍山販賣所(電話二〇二番)

M.C.C.

專賣局の定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣

土紙 耳卷 古實

エムシーシー

京城、平壤龜屋……釜山、木浦、群山高瀨支店

齒科診療

仁川本町三丁目通南入三階建 成蹊堂齒科醫院

印章彫刻 ゴム印彫刻

京城本町四丁目 赤帽子號印舖 電話九三番

諸官衙御用達 奧野岩太郎

入院隨意

仁川病院

院長醫學士 由利弘

副院長醫學得業士 長尾乙二

慈惠會醫學士 尾上早見

東京醫科大學撰科專攻 菊池徹

藥劑士 常盤光雄

電話十六番